

(こくさいか山口 2007年1→3月号掲載記事)

～下関平家踊り保存会青島公演レポート～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
礪田 将史

10月14日(土)から15日(日)にかけて、下関平家踊り保存会の皆様が下関市の友好都市である中華人民共和国山東省青島市を訪問されました。

この時期青島市では、「青島－日本友好交流周(ジャパンウィーク)」が開催され、その主催者である青島市対外友好協会、青島日本人会から同保存会が招聘を受け、このたびの訪問となったものです。日本文化の紹介を通じて、青島の皆様との交流をさらに深めたい、という日本人会からの要請に、保存会の皆さんが各々お忙しい中時間を割いて青島にお越しいただき、日本周開幕晩餐会メインイベント、そして、青島日本人学校での文化紹介授業の2度の公演を行っていただきました。

晩餐会当日の14日は、その日の16時に青島港に着き、19時には踊り披露という大変タイトなスケジュールでした。リハーサルの時間もない状態でしたが、さすがに海外公演も多くこなされている皆さん方。手早く準備をされ、すばらしい公演をしていただきました。

青島ではこうした本格的な日本の伝統文化を目にする機会はほとんどなく、晩餐会では、来場した参加者の皆さんは勇壮な太鼓、小気味よい三味線の響き、迫力ある囃しを耳にして圧倒されていました。腕を肩から下に下げない「糸繰り式」という独特の腕さばきをまねようと、会場の子供さんが飛び入りで踊りに参加する思わぬハプニングもあり、会場から笑みがこぼれていました。

開幕晩餐会の大成功から一夜明けて翌15日。この日は、青島日本人学校の児童に踊りの披露と指導をしていただきました。

授業開始の1時間前に学校に到着し、保存会の皆さんは一息つく間もなく、早速大太鼓やのぼりといった大道具の準備です。しかし、初めての公演場所でありながら、皆さんはてきぱきと準備をすすめていきます。

「児童の皆さんが踊りをよく見られるように、太陽を背にして座ってもらいましょう。」こうした細かな気配りをしてくださるのも、皆さんの経験のなせるわざと感心しました。

3時間目の文化紹介授業が始まると、参加した小学生55名は、勇壮な太鼓や囃しにちょっとびっくりした様子。しかし、興味深げにじっと踊りを見ています。公演のあとの楽器体験、踊り指導では、子供たちがわれ先にと集まる中、一人ひとりに丁寧な、そして熱心に指導して下さった皆さんのおかげで、とても和やかに楽しい交流授業となりました。



「難しかったけど、とても楽しかった。遠いところからわざわざ来てくださって、本当にありがとうございました。」という児童たちの言葉に、暑い中での指導公演、重い機材の運搬の大変さを忘れたかのような、保存会の皆さん方のすてきな笑顔がとても印象的でした。

保存会の皆さん、本当にお疲れ様でした。